

interview

スター福祉村デイサービスさま

—ゼロプロ取り組み前後の変化について教えてください。

磯部 肺炎が減ったことはもちろん、1番大きな変化は、今まで口腔内への興味が薄かったスタッフが「口腔ケアは大切なものなんだ」という意識に変わったことです。

私自身は歯科技工士の経験があるため口腔内への関心は人一倍ありますが、通常の介護職員で特別お口に興味があるというのは珍しいのではないのでしょうか。

清水 ゼロプロに取り組む前から、利用者さんの食後の口腔ケアは実施しておりましたが、あくまで生活の一部としての歯磨きの認識でした。そこに専門的な知識が加わり、お口の中や義歯の不具合に気づきやすくなった実感があります。

生活相談員（介護福祉士）
清水さん

磯部 口腔ケアに対して苦手意識のあるスタッフが以前よりは、減った感覚もありますね。併設の居宅介護支援事業所には歯科技工士の経験のあるケアマネージャーも所属しており、OHAT等ゼロプロを通じて普段から口腔状態を気にかけてくれています。

で、書類はどのようなものなのか等の必要事項が具体的に想像できておらず、どこか敷居が高いイメージがありました。

いざゼロプロに取り組む始めると、細かなサポートのおかげで思ったよりも複雑なことはなく、取り入れて良かったと感じています。

清水 加算を取ると決めたからには、きちんと取り組まなければならないという意識で日々口

清水 お口のなかへ意識がいくようになると、「この方って、入れ歯だったの!？」といったような発見もあります。

磯部 義歯に関してだとティッシュに包んでおいたり、ポケットにしまったりすることがどうしていけないのか。それは、義歯を乾燥から守りひび割れ等を防ぐという理由があります。

単なる「水につけておいて」という指示よりも、義歯への関心が高まったことが改めて義歯の扱い方について確認することへとつながったと感じています。関心が高まり、理由を理解した上での行動を大切にしたいです。

清水 義歯を外したら残根があって、その部分もケアしないといけないということも知ることができたので、今では口腔ケア時に義歯を外すことは当たり前になりました。今後も、一つ一つの意識付けを共有していけたらと思っています。

腔ケアと向き合っています。そして、その先に「誤嚥性肺炎ゼロプロジェクト」の名前の通り、ご利用者さまの誤嚥性肺炎をゼロにすることを目標に取り組んでいきます。

磯部 どのスタッフが口腔ケアをしても仕上りのレベルに差がない状態にしたいです。施設全体が「口腔ケアを通してご利用者様の健康を守っていく」というような意識になったらいなと思っています。



生活相談員
(歯科技工士)
磯部さん



生活相談員（介護福祉士）
清水さん



—ゼロプロでの目標は？

磯部 口腔ケアの重要性が分かっていても「口腔ケアで加算をとる」ということに対し

誤嚥性肺炎ゼロプロジェクトに実際にご参加頂いている施設職員さんにインタビューを行い、リアルな声を隔月発行にてお届けしています。普段はなかなか聞くことのできない、ゼロプロの舞台裏をぜひお楽しみください。

information

Yorisoi の称号をリニューアルしました



ゼロプロ参加施設のみなさまにご利用いただいている、Yorisoi で担当者ごとに称号が選択できることをご存知でしょうか？口腔ケアの各工程の実施回数に応じて、選択できる称号が増えます。もうほとんど解禁になり、つまらないと感じている方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

この度、称号をアップデートいたしました！条件の見直しと、称号追加を行いましたので、ぜひこの機会にご自身の称号を見直していただき、口腔ケアのモチベーションへとつなげていただけますと幸いです。

よりそい
Yorisoi

編集後記

最後まで読んでくださり、ありがとうございます。今回の vol.24 では、綺麗な海の近くの施設を取材させていただきました。また、称号リニューアルにも携わらせていただき、称号名を考えるのが楽しかったです。みなさま、ぜひご活用ください！

2025年6月 川谷

\check!!/

公式 LINE、instagram、YouTube
にて情報を発信しています。

SNS



株式会社 クロスケアデンタル

編集担当：川谷

お問合せ：092-986-9600

info@crosscare-dental.jp

